

二〇〇九年度 入学試験問題

国語

受験上の注意

- 一 問題用紙は12ページあります。
- 二 試験時間は四十分です。
- 三 解答用紙に、氏名（ふりがな）・受験番号・中学校名・中学校コードを必ず記入し、受験番号と中学校コードをマークしてください。
- 四 マークの記入は、必ずHBの黒鉛筆で、所定のマーク解答欄の○を正確にぬりつぶしてください。
- 五 記述の記入は、所定の記述解答欄にていねいに行ってください。漢字は楷書で、いねいに書いてください。
- 六 訂正は、プラスチック製消しゴムできれいに消してください。
- 七 解答用紙を、折り曲げたり、汚したりしないでください。

中京大学附属中京高等学校

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かつて国民作家だった夏目漱石が日本の英文学研究の創始者の一人だったことは、意外に知られていない。夏目漱石は作家になる以前には一人の英文学者だったのである。多くの学問がそうであったように、東京帝国大学では英文学もはじめは外国人（たとえば、小泉八雲、ラフカディオ・ハーン）に任せるしかなかった。しかし、当時の文部省は夏目漱石をイギリスに留学させ、日本人としてはほとんど最初の英文学者に仕立て上げたのである。

その英文学者時代の講義をまとめた『文学論』で、漱石は興味深いことを言っている。科学は因果関係のはじめから終わりまですべてを隙間なく語れなければならないが、文学はそうではないというのだ。Ⅰ、文学言語は何に答えるのか。文学言語は「Why」（なぜ？）という疑問に答えなければならない、と漱石は考えたようだ。何か起きたとき、「なぜ？」と問うたとき、Ⅱ、「原因は何か？」と問うたとき、そのとき、答えは一つに決められるのだろうか。

黒崎宏が面白いことを言っている。地震で家がトウカイした。Ⅲ、その原因は一つには決められないと言うのだ。家がトウカイした原因は「地震のため」と答えることもできるし、「家の造りが弱かったから」と答えることもできるし、Ⅳ「地球に重力があったから」と答えることさえできるはずなのだ。すなわち「原因」として何を挙げるかは、客観的に決まっている訳ではない、という事を物語っている。『原因』として何を挙げるかは、基本的には、それに係わる人間の問題意識に依存するのである」（ワイトゲンシュタインから道元へ）哲学書房、二〇〇三・三、ゴチック体原文）。

漱石は、何を「原因」として挙げるかは「好み」の問題だと考えた。それを真つ当な「原因」だと判断するかどうかは、Ⅴ、読者の側の問題なのだ。漱石は「所謂文芸上の眞は時と共に推移するものなるを忘るべからず」とも言っている。この「眞」はそのまま「リアリティー」（ほんとうらしさ）と言い換えることができるから、「リアリティー」を支える読者の「好み」は時代によって違うものだと言っていることになる。小説ならば、そこに挙げられた「原因」がリアリティーを持つか否かは、その時代の読者の「好み」に委ねられるのである。文学は科学のように隙間なく「事実」を説明する学問ではなく、むしろ隙間を読者の「好み」によって埋める娯楽なのである。それが、文学に対する読者の仕事である。文学は読者が自らの仕事を果たすことによって文学たり得ていると言える。だから、文学は多義的であってかまわないし、断片的であってかまわないのだ。いや、そうあるべきなのだ。それを縫い合わせ、一つの「物語」に織り上げるのが読者の仕事なのだから。これが、漱石の考える文学の自由である。そして、これが漱石がイメージする文学である。

小説の言葉はもともと断片的で隙間だらけのものだということだ。小説の言葉が世の中のことを余すところなく書くことができるのなら、

どんな読者でもみな同じようにしか読めないことになってしまふ。しかし、もともと小説の言葉にはそういうことはできはしないのだ。

夏目漱石は「ある人の一日を知るには、一日分の活字を読まなければならない」という意味のことを言っているが、もちろんこれは言葉の綾であつて、実際には一日中活字を読んでもある人の一日を十分に理解できるわけではない。逆に、場合によっては「今日一日なにもなかった」という味も素っ気もない一文だけで、十分にその人の一日を伝えることもできるだろう。ここでは、言葉の隙間こそが重要な働きをしていると言⁵える。小説の言葉とは不思議なものなのだ。

たとえば、断片的で隙間だらけなのにあたかも出来事が連続しているように見せかけることは、つまり部分を全体に見せかけることは、小説という芸術にとつてまずはじめにやらなければならない事柄である。小説は長い時間をかけてそういう技術^(ウ)をキタえてきた。試みに、次の文章を読んでみてほしい。

朝九時に起きると、僕は歯を磨いてから朝食をとつて、急いで玄関を出た。

どこかの小説にでもありそうな何の変哲もない文章だが、こんな文章でもいくつかの問題を孕^{はら}んでいる。

この文章は、朝起きてから出かけるまでの出来事が、順を追つてごく普通に書いてあるように読める。しかし考えてもほしいのだが、これだけのことがもし仮に連続して起きていたとしたら、この人物は玄関に蒲団^{ふとん}を敷^しいて歯ブラシをくわえたまま寝ていて、かつそのまま玄関であらかじめ準備の出来ていた食事をとつたことになる。その上、背広姿で寝ていたとでも言うのだろうか。

そんなバカなことは普通やらないというほくたちの常識が、この文章を不自然には見せないのである。読者は、この文章に書かれなかった多くの動作——蒲団から出るとか洗面所に行くとか朝食を作るとか着替えるとか、そういう動作を自分の経験に照らして補つて読む。つまり、知らず知らずの間に、「7」を埋めているのである。ほくたち読者は、意識せずに実に多くの仕事をしているのだ。

(石原千秋『未来形の読書術』より)

問一 二重傍線部（ア）～（ウ）について、漢字はその読みをひらがなで示して、カタカナは漢字に直しなさい。（記述解答欄）（ア）は **A**、（イ）は **B**、（ウ）は **C**

問二 傍線部1「夏目漱石」の作品として 適当でないものはどれか。次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。（マーク解答欄）

1

- ① 門 ② 三四郎 ③ 彼岸過迄 ④ 暗夜行路 ⑤ 草枕

問三 **I**～**V**にあてはまる言葉はどれか。最も適当なものを次の①～⑤から一つずつ選び、記号で答えなさい（記号は重複

しない）。（マーク解答欄）**I**は **2**、**II**は **3**、**III**は **4**、**IV**は **5**、**V**は **6**

- ① あるいは ② では ③ まさに ④ ところが ⑤ つまり

問四 傍線部2「客観」の対義語を、漢字二文字で答えなさい。（記述解答欄） **D**

問五 傍線部3「読者の側の問題なのだ。」とはどのようなことか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。（マーク

解答欄） **7**

- ① 読者の、人生における経験や知識の量に影響されるということ。
② 読者の、その時の感情に影響されるということ。
③ 読者の、読書経験の多い／少ないに影響されるということ。
④ 読者の、仕事に対する熱意に影響されるということ。
⑤ 読者の、問題に対する意識の持ち方に影響されるということ。

問六 傍線部4「文学は読者が自らの仕事を果たすことによって文学たり得ている」とはどのようなことか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄) 8

- ① 作品に書かれていない部分を読者が補って読むことで、作品が一つのものであるとして成立するという事。
- ② 多義的で断片的な作品を、読者が意識的に統一することで、その世界が確固たるものになるということ。
- ③ 作品は読者が「読む」という行為によってはじめて、その社会的意義が立ち現れるということ。
- ④ 読者が「本を読む」という行為によって、出版業界が支えられ、その歴史が続いてきたということ。
- ⑤ 読者が作品を自由に読むことによって、読書の楽しさを社会に広めることができるということ。

問七 傍線部5「小説の言葉とは不思議なものなのだ。」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄) 9

- ① 簡潔な文章の方が、多くの読者に対して自由に想像する楽しさを与えてくれるから。
- ② 文章の特徴だけで、風景や登場人物の性格を、そのままそっくり伝えることができるから。
- ③ 活字の多さが、そのまま情報の量や質に反映しないから。
- ④ 小説を読むときに読者が参照する、常識や経験に大差がないから。
- ⑤ 同じ活字を見ているのに、その解釈は読者の「好み」に大きく左右されるから。

問八 傍線部6「何の変哲もない」の語句の意味はどれか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄)

10

- ① とくに考えもない
- ② とくに特徴もない
- ③ とくに美文でもない
- ④ とくに普通でもない
- ⑤ とくに変化がない

問九 「7」にあてはまる語句を、本文から五文字(句読点は含まない)で抜き出しなさい。(記述解答欄)

E

(二) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学生の「健太」は、「頑固親父」(頑迷さに由来するあだ名)の指導する柔道教室ではほとんど敵なしで、さらに自主的にトレーニングを行って、熱心に取り組んでいる。今日も学校から帰ると、柔道教室に出かけた。

「健太」頑固親父が呼び止めた。「お前は友里と組め」

「え? ぼくも?」

「人数が足りないんだ。それに、お前は背負い投げの練習が好きだろうか?」

頑固親父は口もとに皮肉な笑みを浮かべている。健太が背負い投げの得意な選手に憧れていることを知っているのだ。健太はできるだけ立ったまま、柔道をしたと思うっている。寝技は嫌い。畳の上でもがき続けるなんて

努力をしないことにしている。寝技は耳のギョーザ化をソクシンするし、技が完全に決まれば、1。寝技をかけられると、健太は技から逃れる

「不満か?」

頑固親父の目が少し厳しくなる。別に不満はない、と健太は思う。「1」。

「いいえ」

「じゃあ、友里、健太が相手だ。遠慮せずに投げ飛ばしてやれ」

気合いを入れるように健太の肩をぽんとたたいた。

友里はすつくと立ち上がり、手と足の関節を回して、軽く準備体操をした。ファイトー、と叫ぶママさんバレーの選手たちの声が響く。調子が狂うな、と思いつつ、健太は友里と正対した。

友里は健太よりも十センチほど背が低い。すらりとした体型で、手足が長く、とても体が柔らかそうだ。

一礼して、襟を取る。まともに目を合わせることができず、健太は首筋に視線を向けた。ああ、色が白いな、と思った時だった。いきなり体

がふわりと浮いて、回転を始め、きれいに背負い投げを決められていた。

3 嘘だろうか? これ。

見上げると、友里が微笑している。目がきらきらと輝いて、頬がうっすらと紅潮している。

健太は立ち上がり、深呼吸をして気合を入れ直す。「Ⅱ」。女の子に簡単に投げ飛ばされたのでは、立つ瀬がない。⁴
さっきのは、ちよつとした油断のせいだ、と健太は思い直す。今度は違う。

違わなかった。襟を取り、間合いを測っていると、すつと友里の体が動いて、健太は畳にたたきつけられていた。
実にアザやかだ。^イ 感心している場合ではない。友里は他の少女たちのような初心者ではない。技をかけるコツを熟知している。そうでなければ、体力の勝つた者を簡単に投げることはできない。

「どうした、健太」と頑固親父が愉快そうに声をかけた。「投げられてばかりじゃなくていいんだぞ」

友里は一言もしゃべらない。組むまでは柔らかに微笑している。組むと同時に表情が引き締まる。健太が力を入れても逆らわない。右に左に重心をずらし、技をかけるタイミングを測る。けれど、友里の動きはとて滑らかで^ウ バランスは崩れない。うかつに技をかけようと、逆に反動を利用されそうだと。

どうしよう？ フェイントでもかけてみるか。引きつけるタイミングを少しずらして、腰を入れた。決まった、と思った瞬間、足を払われ、返し技の犠牲になっていた。⁵

嘘だろうか？ これ。

でも、本当なのだ。健太は素早く立ち上がった。畳の上に座り込んでいるわけにはいかない。練習生たちが盗み見をしているのはわかっていいる。健太は女にも勝てないなどと思われたら、最悪だ。練習生たちのなかで健太と⁶ 互角に闘える者は数えるほどしかないのだ。

もう一度、組む。「Ⅲ」。男だと思えばいいのだ。
けれど、またしても健太は友里の技の餌食になった。

「その辺でいいだろう」

頑固親父の声がかかった。

7 挽回のチャンスは失われた。そう思いながらも健太は心の片隅ではほつとしていた。これ以上続けても友里に勝てるとは思えない。焦れば焦るほど技の切れはなくなる。絶望するほど惨めな気分になるよりも今のうちにやめておいた方が賢明だ。

丁寧にお辞儀をして、健太は友里に背を向けた。練習相手のニキビ面の男がにや笑いながら近づいてくる。

「健太、女相手だと力が入らないのか？」

健太は答えずに、ニキビ面の襟を取った。相手の体勢が整うまで待つてから、背負い投げをしかける。あっけなく技は決まった。別に調子が悪いわけではないのだ、と健太はニキビ面を見下ろして思う。「Ⅳ」。

少し離れた場所から友里の動きを見守った。今は女の子を相手に組んでいる。投げたり投げられたりを繰り返している。投げられた時の身のこなしもしなやかだ。相手の女の子は初心者だから、わざと背負い投げがされやすい体勢を作っているようだ。

友里は健太の方に顔を向けると、にっこりと笑った。体からすつと力が抜けていく感じがする。「V」。こんなことではいけない、と気合いを入れ直しながらも、健太は思わず頬が緩むのを抑えることができなかった。

(川西蘭『決戦は金曜日』より)

問一 二重傍線部(ア)～(ウ)について、漢字はその読みをひらがなで示して、カタカナは漢字に直しなさい。(記述解答欄)(ア)は

F、(イ)は G、(ウ)は H

問二 1 にあてはまるものはどれか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄) 11

- ① 信念に反している
- ② ひどく見栄えが悪い
- ③ 邪道である
- ④ 戦意を喪失する
- ⑤ 無駄な労力だ

問三 「I」～「V」にあてはまるものはどれか。次の①～⑤から一つずつ選び、記号で答えなさい(記号は重複しない)。(マーク

解答欄) Iは 12、IIは 13、IIIは 14、IVは 15、Vは 16

- ① 友里に見とれてばかりはいられない
- ② 相手が友里だと思っからいけないのだ
- ③ ちよつと照れくさいだけだ
- ④ 彼女の笑顔は闘志を奪ってしまう
- ⑤ 友里が強いのだ

問四 傍線部2「まともに目を合わすことができません」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。

(マーク解答欄)

17

- ① 友里の強さは周知のことであり、その強さに臆したから。
- ② 目を合わす暇もなく、友里が技を仕掛けてきたから。
- ③ 友里をまともに見れば、戦意を失うことを知っていたから。
- ④ 友里を身近に見て、照れくさい気持ちがあったから。
- ⑤ 友里は健太を相手にしておらず、無視されたから。

問五 傍線部3・5「嘘だろう? これ。」には、それぞれのどのような気持ちが込められているか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄) 3は 18、5は 19

- ① いきなり投げ飛ばしてきた友里を非難する気持ち。
- ② 圧倒的な友里の強さに驚く気持ち。
- ③ 友里が短期間に驚くほどの成長を見せたことに、とまどう気持ち。
- ④ 勝つはずの自分が負かされてしまったことを信じられない気持ち。
- ⑤ 友里があつという間に技を決めたことに、驚く気持ち。

問六 傍線部4「立つ瀬がない」・傍線部6「互角に」の語句の意味はどれか。最も適当なものを次の①～⑤から一つずつ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄) 4は 20、6は 21

4「立つ瀬がない」

- ① 味方がいない
- ② どうしようもない
- ③ 面目が立たない
- ④ タイミングがつかめない
- ⑤ 気持ちが落ち着かない

6「互角に」

- ① 五分五分で
- ② 正面から
- ③ 積極的に
- ④ 声を掛け合って
- ⑤ 真面目に

問七

7 に漢字二文字を入れて、四字熟語を完成しなさい。(記述解答欄)

1

問八 傍線部8「少し離れた場所から作っているようだ。」における「健太」の心情として、最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄)

22

- ① 練習の光景からも友里のうまさは感じ取れ、改めて友里の強さを実感した。
- ② 練習相手の少女と比較しても友里の美しさは際だっており、改めて異性としての魅力を感じた。
- ③ 練習相手への気配りが感じ取れ、友里の違う一面を発見し、いっそう心を惹かれた。
- ④ どんなにひどく投げ飛ばされても、やはり友里を慕う気持ちに変わりはないと確信した。
- ⑤ 友里が熱心に練習する様子を観察し、次の機会への闘志を燃やし始めた。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【原文】

いでや、この世に生まれては、願はしかるべきことこそ多かめれ。

御門みかどの御位はいともかしこし。竹の園生そのふの末葉すえはまで、人間の種たねならぬぞやんごとなき。¹一の人の御ありさまはさらなり、ただ人も、舍人とねりなど賜はるきははゆゆしと見ゆ。その子・孫までは、はふれにたれど、なほなまめかし。それより下しもつ方は、²ほどにつけつつ、時にあひ、したり顔なるも、自らはいみじと思ふらめど、いと口惜し。

法師ばかりうらやましからぬものはあらじ。「人には木の端はしのやうに思はるるよ」と清少納言3が書けるも、げにさることぞかし。勢まうひ猛に、ののしりたるにつけて、いみじとは見えず。増賀ぞうかひじりの言ひけんやうに、名聞みやうもん苦しく、⁴仏の御教へにたがふらんとぞ覚ゆる。ひたふるの世捨て人は、なかなかあらまほしきかたもありなん。

〔徒然草〕

【口語訳】

いやもう、この世に生まれたからには、こうありたいと願うに違いないことは、実に多いようである。

天皇の御位はたいそう恐れ多いことである。皇族でその子孫に至るまで、人間の血統でないのが尊いのである。摂政・関白の御ありさまはいうまでもないが、一般の貴族でも、舍人をいただく身分の者はすばらしく見える。その子孫や孫までは、落ちぶれてしまってもやはり上品である。それより下しも々の者は、身分に応じて、時世に巡り合い、得意顔でいる人も、自分自身では立派であると思っっているのだから、他から見るとたいへんくだらないことだ。

法師はどうらやましくもないものはほかにあるまい。「他人には木の端のやうに思われるよ」と清少納言が書いているのも、なるほどそのとおりであるよ。また勢いが盛んで、世間からもてはやされていても、立派だとは思わない。増賀ひじりが言ったとかいうように、世間の評判が高いのは心苦しいことで、仏の御教えに背いているであろうと思われる。徹底した世捨て人が、かえって好ましいところもきつとあるだろう。

問一 傍線部1「一の人」の対になっている語句はどれか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄)

23

- ① 御門
- ② 人間の種ならぬ
- ③ ただ人
- ④ 法師
- ⑤ 世捨て人

問二 傍線部2「いと口惜し」と思ったのは誰か。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄)

24

- ① 御門
- ② その子・孫
- ③ 作者
- ④ 清少納言
- ⑤ 増賀ひじり

問三 傍線部3「清少納言」が作者となっている作品の名前を次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。(マーク解答欄)

25

- ① 平家物語
- ② 方丈記
- ③ 大和物語
- ④ 源氏物語
- ⑤ 枕草子

問四 傍線部4「仏の御教へにたがふらん」とあるが、何が「仏の御教へにたがふらん」なのか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び、

記号で答えなさい。(マーク解答欄)

26

- ① 名聞に苦しみ悩むこと
- ② 名聞の高きこと
- ③ 勢ひ猛に、ののしりたること
- ④ 時にあひ、したり顔なること
- ⑤ 舍人など賜はること

問五 原文後半部分で作者が「法師」よりも「仏の御教へ」に合っていると述べているものは何か。原文の後半部分から、十文字以内(句読点は含まない)で抜き出しなさい。(記述解答欄)

J